

「インプラント治療に関する補綴的リスクファクター」

講師：古谷野 潔教授(九州大学歯学部)

シンポジウム「クレスタルアプローチを再考する」

水口稔之・徳山性文・内野文彦

日時：平成25年10月20日(日)

場所：ステーションコンファレンス東京



太田 広宣 (東京都)

第2回定例研修会に参加して

午前の部

ケースプレゼンテーション・シンポジウム

台風27号の影響か、冷たい秋雨の降りしきる中、ステーションコンファレンス東京に於きまして第2回定例研修会が開催されました。

午前の部は、3名の会員によるケースプレゼンテーションと「クレスタルアプローチを再考する」というテーマでシンポジウムが開催されました。

症例発表の3人の先生方はいずれもインプラント臨床の経験豊富な先生であり、ハイレベルな興味深い発表をしていただきました。

また、シンポジウムにおきましては、トップバッターの水口先生は、自身で考案されたスリットリフト法について詳しくお話いただき、その有用性について述べられておりました。

徳山先生には、CGF.AFGを用いたクレスタルアプローチ法について、過去の臨床経験を交えながら

お話し戴きました。

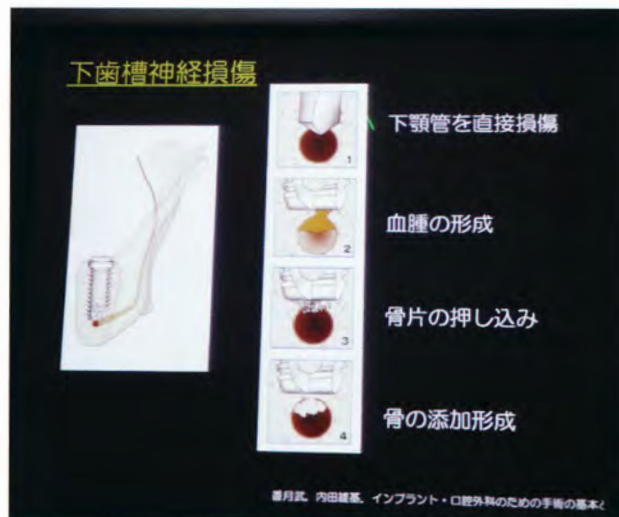
内野先生には、自院でのサイナスリフト法の変遷について多くの症例を交えながらそれぞれの治療法の特徴についてもわかりやすくお話しいただきました。

午後の部

補綴関連のトラブルについて

午後の部は、九州大学歯学部教授の古谷野潔先生をお招きし、「インプラント治療に関与する補綴的リスクファクター」という演題でご講演を戴きました。

外科的偶発症から補綴関連のトラブルについて、その考えられる要因や対処法についてお話しいただきました。特に、インプラント体と骨界面の維持増強に関する因子、オッセオインテグレーションの時期について確立期と維持期でのそれぞれの生体側での特徴や、骨質と埋入トルク値とのISQ値への関係性について、また、wolffの法則の原理を



応用したプログレッシブローディングについても興味深いお話を戴きました。

また、研究室でのトピックとして興味深かったのは、使用目的から薬事をクリアするには莫大な資金がかかり非現実的ではあるようですが、血中コレステロールを下降させるスタチンが骨形成の促進を促し、BMP-2の合成促進への効果も確認

されつつあるとのことで、我々インプラント治療を手掛ける歯科医師にとっては興味をひかれるお話でした。

その後の質疑応答においても活発な質問があり、会は一日盛況の中、終演を迎えることができました。

